

経営比較分析表（令和6年度決算）

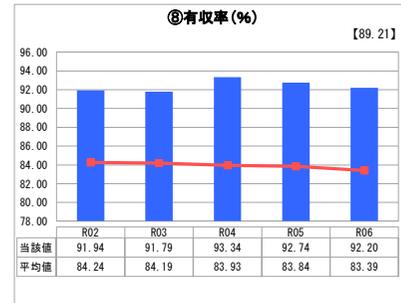
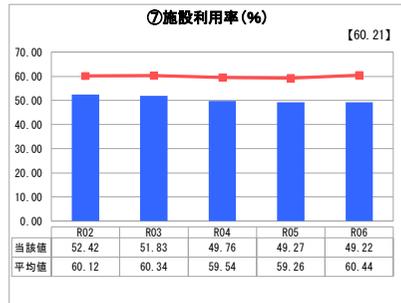
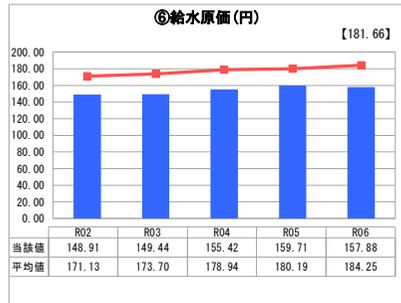
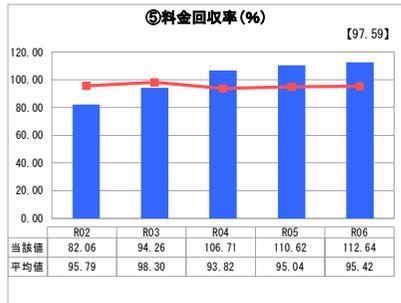
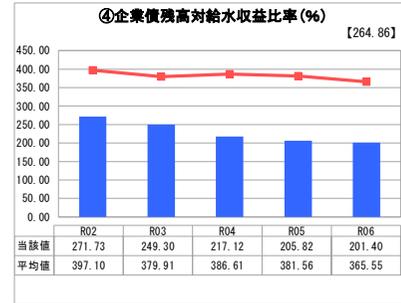
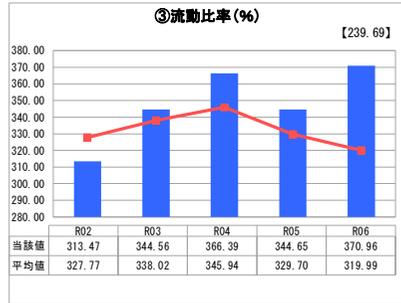
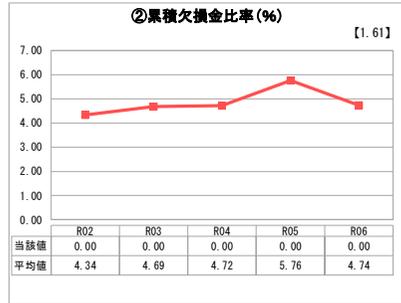
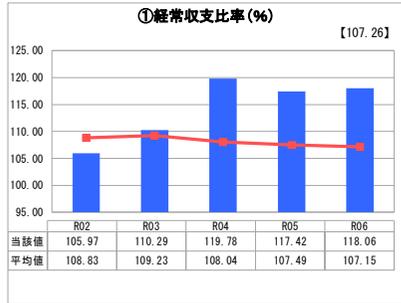
埼玉県 毛呂山町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	81.44	99.87	2,593	

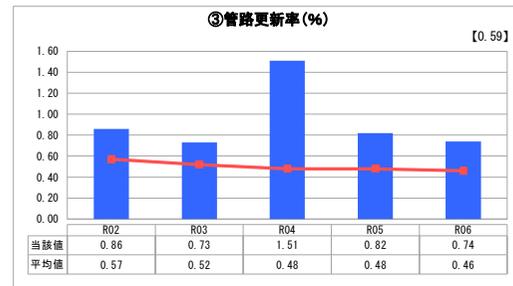
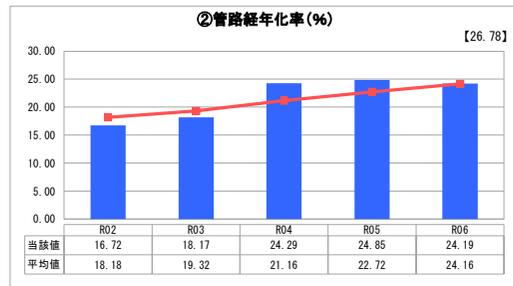
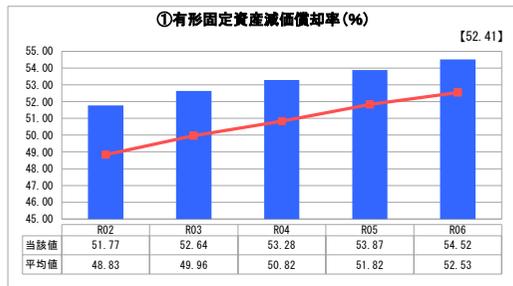
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
32,043	34.07	940.50
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
31,823	24.20	1,315.00

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均	

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
100%を超えており、単年度収支が黒字であることを示している。
- ② 流動比率
類似団体の平均を超えており、また、100%を大きく超えているが、今後の給水収益の減少を踏まえると、引き続き経営努力が必要である。
- ④ 企業債残高対給水収益比率
類似団体等比較しても低くなっており、また、給水収益が減少しているなか、企業債残高対比率も下がってきている。今後も適正な借入額を検討していく。
- ⑤ 料金回収率
令和3年10月の料金改定以降、類似団体及び100%を超える状況が維持されている。
- ⑥ 給水原価
類似団体平均より低く抑えられている。また、前年度より下降している。今後も経費削減など経営努力に努める。
- ⑦ 施設利用率
類似団体及び50%を下回っている。今後の水需要を踏まえ、施設のダウンサイジング等を検討していく必要がある。
- ⑧ 有収率
類似団体の平均は上回っているが、前年度と比較し下降してしまっている。効率的な管路更新を進める必要がある。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率
年々上昇傾向にあり、類似団体の平均も上回っている。施設・管路など老朽化が進んでいるため、今後も計画的な更新を進めていく必要がある。
- ② 管路経年率
若干の改善が見られ、類似団体の平均とも同等となったが、更新時期を迎えた管路は多くあるため、計画的かつ効率的な更新に取り組む必要がある。
- ③ 管路更新率
類似団体の平均は超えているものの、耐用年数での更新が間に合わない更新率となっている。今後更新率を上げていく努力が必要である。

全体総括

経営の健全性については、令和3年10月に行った料金改定により、財政面については改善して以降横ばいとなっている。施設面については、老朽化が進んでおり、年々悪化している状況である。今後水需要の減少が予想されているので、経営の健全性をそのまま維持することは難しい。施設更新時には、ダウンサイジングなどを検討し、将来の水需要に合った施設規模を検討していく必要がある。また、施設・管路の計画的な更新や、長寿命化などの効率化に努める必要がある。今後は広域化も含め事務の更なる見直しや、合理化を進めていく必要がある。

経営比較分析表（令和6年度決算）

埼玉県 毛呂山町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	84.77	1.21	99.76	1,925

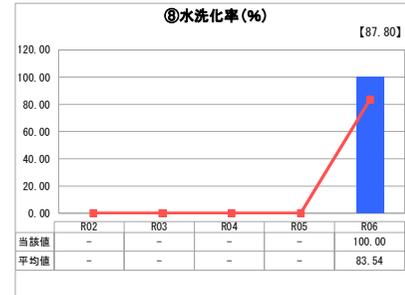
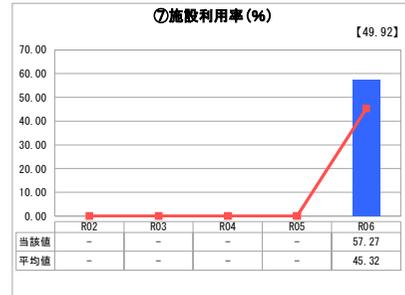
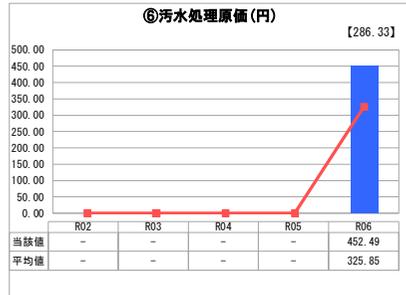
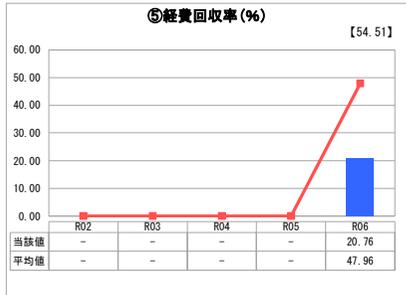
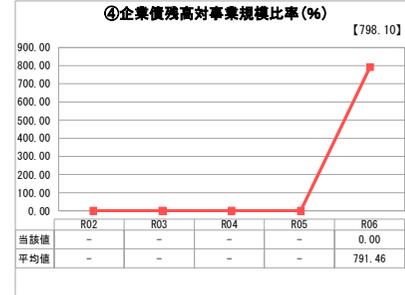
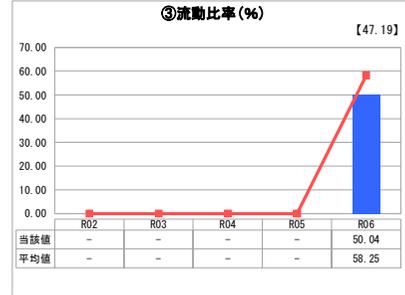
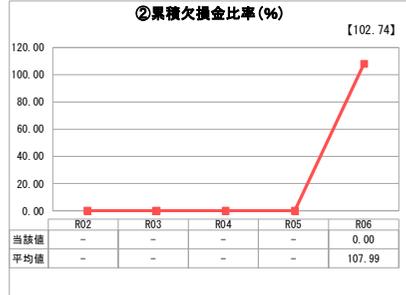
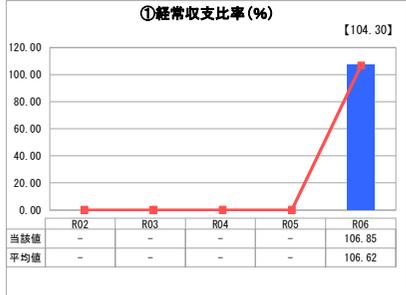
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
32,043	34.07	940.50
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
387	0.24	1,612.50

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常的収支比率・累積欠損金比率
 ・経常的収支比率は100%を上回っており、累積欠損金比率は0%となっており概ね良好である。しかしながら、一般会計からの繰入金に依存している状況である。

流動比率
 ・流動比率は50.04%と基準値(100%)を下回っている。しかしながら、流動負債の大部分を一般会計からの繰入金を財源とする企業債務償還で占めていることから、支払能力に問題ないと考えられる。

経費回収率
 ・経費回収率は20.76%であり償還金や費用不足を一般会計からの繰入金により賄っている状況。
 原因としては使用料の減少、老朽化による修繕費の増加が大きな要因と考えられる。利用料改定の検討による経費削減等に努め、回収率の改善を図る必要がある。

汚水処理原価
 ・汚水処理原価は452.49円と平均値を上回っている。人口減少により処理量が減少したことが要因である。

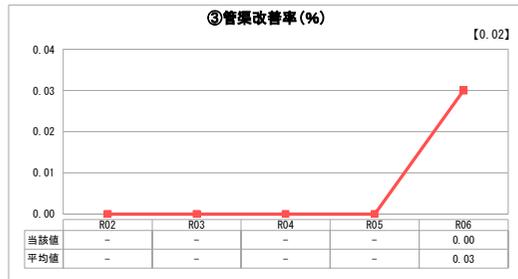
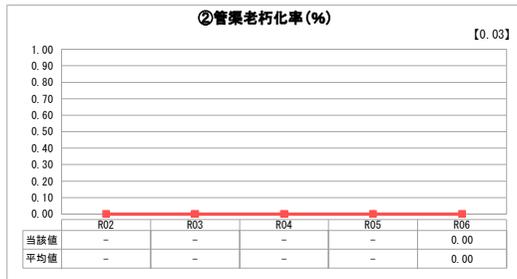
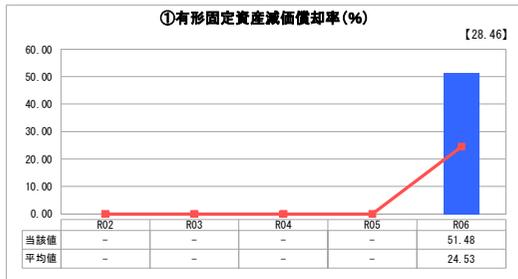
施設利用率
 ・施設利用率57.27%と平均値を上回っている。人口減少により処理量が減少したことが要因である。将来的な更なる人口減少等を考慮し施設規模の縮小を検討していく必要がある。

水洗化率
 ・一般会計への移行とともに接続化人口の算出方法の見直しをしたことで水洗化率100%となった。用水域の水質保全が図られている。今後も啓発等により接続率向上に努める。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は51.48%となっており、平均値を上回っている。これは法定耐用年数を超えた機械設備が多く、更新工事が遅れていることが原因である。今後は計画的に更新工事を行う必要がある。
 管渠については法定耐用年数を超えた管渠がないため更新工事を行わず日常点検を行っている状況である。

2. 老朽化の状況



全体総括

経費回収率をはじめとする経営の健全性・効率性を示す指標において、農業集落排水使用料収入だけでは賄えていない状況であり、一般会計からの繰入金に大きく依存している。これらの改善の為、料金改定をはじめ処理施設の統合や公共下水への接続等、抜本的な対策を検討し経営状況の改善を図る必要がある。
 また、最適化整備構想を基に更新費用の平準化、機器の効率的な維持管理を行うことで生活環境の維持・向上に努めます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。